

大東文化大学

語学教育研究所報

No. 43 2020年3月

目次

2019（平成31・令和元）年度活動報告	1
2019（平成31・令和元）年度語学教育研究所運営委員及び研究員	2
学外研究員	3
研究員研究分野の紹介	3
2019（平成31・令和元）年度研究発表会・講演会	4
刊行物について	8

2019（平成31・令和元）年度活動報告

語学教育研究所所長

Christian W. Spang（クリスティアン・シュパング）

2019年4月から21代目の語学教育研究所所長に就任致しました外国語学部英語学科のシュパングでございます。語学教育研究所「語研」の37年の歴史では様々な外国人の先生が運営員・研究員・客員研究員として研究活動しましたが、外国人の所長はこれまでなかったことです。

2019年度に新しい事務員を迎えて、研究所は久方ぶりに月曜日から金曜日、9時から16時まで開いております。運営員は12人、研究員は7人で、5月から学外研究員が1名いらっしゃいます。今年度は4回の研究発表会およびそれぞれの言語分野（中・英・日・独・仏）の講演会を行いました。

2019年度の第1回および第4回講演会を板橋校舎で、第2回講演会を大東文化会館で、第3回と第5回講演会を東松山校舎で行いました。2019年4月のドイツ語分野の講演会(1)では元在日ドイツ大使 Dr. Volker Stanzel 氏が「イギリスの欧州連合離脱（Brexit）

とヨーロッパ」について論じました。中国語分野の講演会（2）は7月に開催された「日中対照研究と中国語教育」という第十七回国際シンポジウムの講演の一つでした。スピーカーは中京大学の張勤教授でした。日本語分野（3）の講演会では荒川洋平先生（東京外国語大学教授）が11月に「外国人と日本語で話すこと」についてスピーチをしました。英語分野の講演会（4）では静岡産業大学の名誉教授の須部宗生先生が『英和活用大辞典』について講演しました。フランス語分野の講演会（5）は2020年1月に行いました。カメルーンに生まれ、日本で育った漫画家の星野ルネ氏が「アフリカ少年が日本で育った結果」について話しました。

『語学教育研究論叢』37号は編集委員長梅本孝先生のご尽力の下に無事刊行されました。今回は20件の学術論文や研究ノートと2冊の教科書についての書評が掲載されます。『語学教育フォーラム』は申し込みがなかったため、2019年度は刊行しません。

今年度、語研に所蔵されている書籍類等の整理を行って、古い教材(カセット・VHSテープ)と古い雑誌を廃物しました。語研は前より綺麗になりました。運営員・研究員・事務職員の皆様のご協力に重ねて感謝いたします。今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2019年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2019年度 語学教育研究所運営委員

所長	クリスティアン・シュバング	外国語学部英語学科
研究部会長	野澤 督	外国語学部英語学科
学部長	高尾 謙史	外国語学部英語学科
学科主任	山内 智恵美	外国語学部中国語学科
学科主任	鈴木 敬了	外国語学部英語学科
学科主任	須田 義治	外国語学部日本語学科
研究科委員長	大月 実	外国語学部英語学科
委員	竹島 毅	外国語学部中国語学科
委員	北林 光	外国語学部英語学科
委員	荒又 雄介	外国語学部英語学科
委員	田中 寛	外国語学部日本語学科
委員	フランソワ・ルーセル	外国語学部英語学科

2019年度 語学教育研究所研究員

部会長	野澤 督	外国語学部英語学科
研究員	趙 葵欣	外国語学部中国語学科
研究員	上田 裕	外国語学部中国語学科
研究員	ロバート・シグラー	外国語学部英語学科
研究員	梅本 孝	外国語学部英語学科
研究員	福永 美和子	外国語学部英語学科
研究員	高野 愛子	外国語学部日本語学科

学外研究員

氏名： 井上 尚子

期間： 2019年5月1日～2020年4月30日

研究テーマ： 留学生へのインタビュー調査を通じた、日本の大学における日本語学習・習得の政治経済的・社会文化的な意義についての社会言語学的分析

研究員分野の紹介

氏名： 野澤 督

所属： 外国語学部英語学科（フランス語）

分野： フランスの旅行記文学・文体論

氏名： 趙 葵欣

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国語学・中国語教育

氏名： 上田 裕

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国語学

氏名： ロバート・シグレー

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： コーパス言語学・社会言語学

氏名： 梅本 孝

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： 認知言語学・応用言語学

氏名： 福永 美和子

所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）

分野： ドイツ現代史（特に戦後ドイツの「過去の克服」と「想起の文化」）

氏名： 高野 愛子

所属： 外国語学部日本語学科（日本語）

分野： 日本語教育学

研究発表会

第1回

日 時： 2019年5月20日（月）

第1発表

発表者： ロバート・シグレー（外国語学部英語学科）

題 目： Improving University Entrance Exams: Can we escape “exam hell” ?

内 容： This presentation shows the results of ongoing efforts to make university entrance exams more suitable for this purpose: (i) better matched to typical candidate levels; (ii) better able to discriminate across a wide range of ability levels, allowing use by different departments; and (iii) more consistent in level, and therefore fairer, across exam dates. The results of 93 English entrance exams from Daito Bunka University are analysed to show the effects of accumulated changes to the exam-writing process between 2002 and 2018, with an ever-increasing use of information from previous exams to guide the production of current exams. The overall result is clear: over this period, the exam sets have been made more consistent in level, and more reliable for their purpose of sorting candidates by English level, even despite an increase in required workload, and a decrease in personnel and time available. Though many challenges remain, these are largely outside the control of the writers.

第2発表

発表者： 梅本 孝（外国語学部英語学科）

題 目： Commonality between Have Causatives and Have Adversatives

概 要： He had his girlfriend come to his place two days ago のような have 使役文と He had a stranger come to his place two days ago のような have を利用した被害を表す文は表面的な構造は同じであるが、意味は反対となることがある。そこでこのような場合は両方に共通する意味として abstract predetermined possession from the idea of contact という抽象的な意味があることを主張する。また、contact の意味を保持しているという観点から前置詞の on とも構造的に並行している可能性も主張する。

第2回

日 時： 2019年6月17日（月）

第1発表

発表者： 上田 裕（外国語学部中国語学科）

題 目： 曲がり角の数え方と事態把握 一日中対照の観点から—

概 要： 地図を用いた道順の説明に際して、中国語話者には、日本語話者よりも曲がり角を一つ多く数える人が少なからず存在する。こうした差異には、両言語で好まれる事態把握の違いが反映されていると考えられる。本発表では、主観的把握を好む日本語話者は狭い視野から事態を把握するため最初の曲がり角が視野に入りにくいこと、客観的把握を好む中国語話者は広い視野から事態を把握するため最初の曲がり角が視野に入りやすいことを主張する。

第2発表

発表者： 高野 愛子（外国語学部日本語学科）

題 目： 学術的文章における「違う」をめぐる文体上の適切性

概 要： レポート・論文などの学術的文章において、「違う」は文体的に不適切であり「異なる」を用いることが適切であると考えられる。しかし、大学生を対象とした調査の結果、学術的文章として「違う」が文体的に不適切であると認識している割合は、日本語母語話者・非母語話者ともに極めて低かった。また、大学教員による運用例の添削状況からも許容される場合が多く見られたことから、学術的文章において「違う」が文体的に適切であるか検討する。

第3回

日 時： 2019年10月21日（月）

第1発表

発表者： 趙 葵欣（外国語学部中国語学科）

題 目： 疑問詞を用いる列挙表現について 一現代中国語の「什么 shénme」を中心に—

概 要： 現代中国語の事物をたずねる疑問詞「什么 shénme」は、列挙を表すことができ、文法形式によって列挙項目の前に置く「什么 A、B……」と、列挙項目の後に付ける「A、B… 什么的」という2つのタイプがある。本発表はこの「什么」の2つの列挙表現を記述して、両タイプの統語的・語用的な差異を考察する。また英語や日本語などの類似表現と比べた上で、中国語の「什么」を用いる列挙表現の特徴も明らかにする。「什么」を列挙項目の前・後に置けるのは特別であると言えるが、後置タイプが他の語彙手段を必要とするのは3つの言語に共通して見られる。

第2発表

発表者： 井上 尚子（語学教育研究所学外研究員）

題 目： 高等教育の社会言語学的分析

概 要： 大学における教育・研究活動に対して社会的に認識される価値は、媒介する言語の政治経済的および社会文化的な属性に結び付いている。筆者はこれまで、留学生が英語圏の大学で学ぶこと、また「英語ネイティブ」教員が日本の大学で教育・研究に携わることを題材とし、本人たちの認識を経験的に探索し、社会言語学的な分析・検討を行ってきた。現在は、日本の大学に留学する留学生が、日本に留学し日本語で勉強・研究することに見出す意義について研究をおこなっている。本発表では、これらの経験的研究の概要について紹介する。

第4回

日 時： 2019年11月18日（月）

第1発表

発表者： 野澤 督（外国語学部英語学科）

題 目： スタール夫人が描いたイタリア — 『コリーヌ』にみるロマン主義的性格—

概 要： スタール夫人（1766-1817）は、『文学論』や『ドイツ論』によりフランス・ロマン主義の理論的基礎を確立する一方で、旅する人でもあった。当時のイタリア旅行者がガイドブックとしても利用した小説『コリーヌ』（*Corinne*, 1807）は、その写実性により、イタリア文化論とも称される。テーマ設定からスタール夫人のロマン主義理論の芸術的実現の側面があるとされるこの小説に描かれたイタリア像を考察し、そのロマン主義的性格を探る。

第2発表

発表者： 福永 美和子（外国語学部英語学科）

題 目： 統一ドイツにおける東ドイツ独裁の過去の検証

概 要： 1990年に再統一したドイツでは、社会主義統一党（SED）が支配した旧東ドイツの独裁の歴史を検証する取り組みが続けられてきた。本報告では、「シュタージ文書の公開とシュタージの歴史的検証」、「東ドイツの体制犯罪の司法追及」、「SED支配の被害者の復権と補償」、「東ドイツに関する歴史研究と想起政策」という4つの観点からこの取り組みを概観し、ナチ時代の過去との取り組みと比較した特徴や問題点について論じる。その上で、世代交代や多文化化、近年の右派勢力の伸張によって転機を迎えている「過去の克服」および「想起の文化」の現状について言及したい。

講演会

日 時： 2019年4月17日（水）板橋校舎

講演者： Dr. Volker Stanzel 氏（ヘルチー大学客員教授）

演 題： 独仏の友好関係 —なぜイギリスはこれに無関心なのか—

概 要： ヨーロッパでは、ドイツとフランスは宿敵だと言われてきました。しかし現在、両国は共に「EUのエンジン」となっています。かつての宿敵はどのようにして友好関係を築いたのでしょうか。本当の和解は、両国の人々がそれを望み、共に平和の実現に向けて努力することではじめて可能となるのです。しかし、他のEUの国々はそのことを理解しているのでしょうか。

日 時： 2019年7月13日（土）大東文化会館

講演者： 張 勤 氏（中京大学国際教養学部教授）

演 題： 一人称視点の主観化と客観化

概 要： 発表は、言語表現における一人称視点の主観化されるか、客観化されるかの違いに注目して日本語と中国語の違いの一端を窺うことを目的とします。可能なら、日本語は、表現における一人称が終始表現者から離れず表現者の視点と一体をなす特徴を持つのに対して、中国語は、一人称が表現において客観化され、表現者の視点が表現の外に置かれる特徴を持つ、ということに分析を加えた上、このような特徴を持つ言語表現は何を意味するか、について考えてみたい。

日 時： 2019年11月19日（火）東松山校舎

講演者： 荒川 洋平 氏（東京外国語大学 国際日本学研究院 教授）

演 題： 外国人と日本語で話すこと —グローバル時代の国際言語管理—

概 要： 中国からの留学生、ネパール人の労働者、フランスからの観光客など、身近なところで外国の人たちを見かけることが、本当に多くなりました。日本での滞在や仕事を円滑に進めるため、この人たちは日本語を使おう、話そうと努力をしています。では私たちはその努力にどう応えれば良いのでしょうか？今回は「国際言語管理」という観点から、外国人に対して自分のことばをどう調節すればより良いコミュニケーションができるのか、考えたいと思います。

日 時： 2019年12月4日（水）板橋校舎

講演者： 須部 宗生 氏（静岡産業大学経営学部 名誉教授）

演 題： 英和活用大辞典の辞書作りの舞台裏

概 要： 発表は過去30年間程、英和・和英辞典づくりに参加してきた経験を基に辞典編集の実務の舞台裏を紹介することを目的とする。その辞典とは具体的には、『研究社新編英和活用大辞典』（1995）、『研究社和英大辞典第五版』（2003）及び紙媒体ではない『研究社オンラインディクショナリー（KOD）』である。特に辞典づくりに基本となるデータベースの構築、その活用、加工作業など執筆の現場実務を中心として、ユーザーフレンドリーな辞典とするための工夫や苦労話を紹介したい。

日 時： 2020年1月9日（木）東松山校舎

講演者： 星野 ルネ 氏（漫画家、タレント、放送作家）

演 題： アフリカ少年が日本で育った結果

概 要： 小中高と日本の学校に通い、日本にいる時に使う言語は9割日本語という星野ルネさん。でも見た目のために、この国のことや日本語はわからないだろうと思われがちです。ご著書のまんがでも紹介されている日本の「外国人」に対する先入観から来るご経験や、2つの国のあいだで生きるということ、またカメルーンの文化についても、お話いただきます。

刊行物について

『語学教育研究論叢 37号』（2020年3月刊行）

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 43

2020年3月1日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

TEL 03(5399)7329

FAX 03(5399)7381

Email: daitogoken@gmail.com

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>